



落葉の頃 (LE TEMPS DES FEUILLES MORTES)



Épais tapis de feuilles mortes dans le Jardin du Luxembourg, Paris 6e (75), novembre 2010, photo Alain Delavie

並木のマロニエやプラタナスは葉も大きいので、シャンソンで知られるプレヴェール(Jacques Prévert)の詩「枯葉」の邦訳にある様な“枯葉よ一音も無くー、、、”どころか、バサバサと葉が落ちる音が聞こえて来そうな雰囲気です。菩提樹やポプラも沢山の葉を散らしますから、落葉を踏んで歩くのは気持ちよけても、市の清掃係は大忙し。雨が降り落葉が下水道に詰って街が洪水になっては大変、とばかり、あちらこちらで掃除機の兄弟の様な機械を背負って、その筒先で吸い取るのではなく、吹き寄せていく、その大きな音が聞こえてきます。

忙しいのは清掃係だけではありません。国鉄(SNCF(Société Nationale des Chemins de fer Français))やパリ市交通営団(RATP(Régie Autonome des Transports Parisiens))にとっても落葉は大きな悩みです。特に郊外では、線路上に落葉が積り、雨が降れば車輪で磨り潰された葉がペースト状となり、まるで薄氷が張った様になって、加速時は車輪が滑って空回り、ブレーキを掛ければ車輪は止まってもそのままスリップしてしまう、等々、普段でも遅れが多いところへ、更に運行上大きな支障をきたすものですから、秋になると“季節的な事態は万策を講じても決して全てを解決する事は出来ない”(Malgré les moyens mis en oeuvre et la mobilisation de tous, cet aléa climatique ne peut jamais



で薄氷が張った様になって、加速時は車輪が滑って空回り、ブレーキを掛ければ車輪は止まってもそのままスリップしてしまう、等々、普段でも遅れが多いところへ、更に運行上大きな支障をきたすものですから、秋になると“季節的な事態は万策を講じても決して全てを解決する事は出来ない”(Malgré les moyens mis en oeuvre et la mobilisation de tous, cet aléa climatique ne peut jamais

être totalement maîtrisé.)と、苦しい“言い訳”をチラシに刷って配布、利用客の理解を求めています。しかし、朝夕に濃い霧が漂う様にはなりませんが、未だ緑を残す木もあり、葉を散らしながらも黄葉は更に進み、窓辺のゼラニウムの花が咲き残って、景色はまだまだ“秋たけなわ”の感じです。大粒の黒ブドウ“ミュスカ”も香りよく美味しい時です。

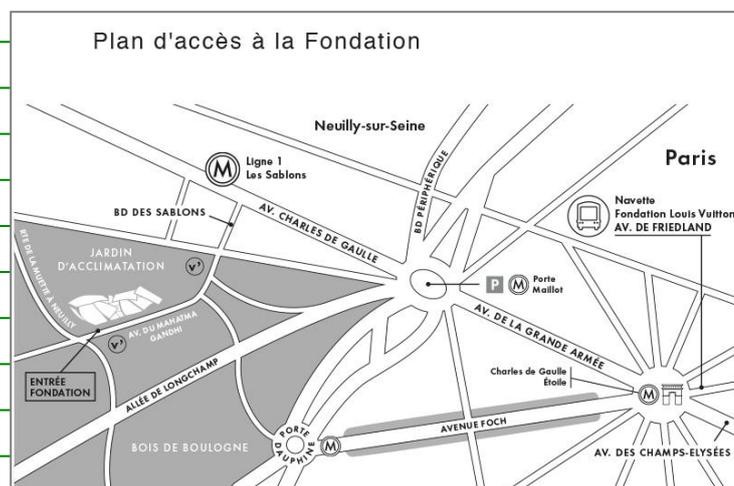
ルイ・ヴィトン財団開館 (L'OUVERTURE DE LA FONDATION LOUIS-VUITTON)



ブーローニュの森に忽然と現れたガラス張りの奇抜な建物の姿は、ビルではなく、まるで水に浮かぶ大型船、建物と云うより芸術作品、それが久しく以前より“大きなガラスの蛹”(une chrysalides de verre)と噂され、何かと話題に上がっていたルイ・ヴィトン財団で、10月27日に愈々開館します。ビルバオのグゲンハイム美術館などを手掛けた現代建築の大家、最も革命的、独創的な建築家の一人(l' un des architectes les plus révolutionnaires et inventifs)と云われるフランク・ゲーリー(*Frank Gehry)の設計で、2001年頃に提案が出され、2006年に建設が正式決定、実際に工事が始まってから5年もの歳月を費やして、此の度完成に至ったものです。当館はルイ・ヴィトン・グループ(LVMH)が長らく取り組んできた芸術、クリエイションなど文化活動の振興・促進を全うすることを目的に建設されたもので、コレクションの発表や各種のショー、展示・展覧会用のギャラリーが11室、そして350席の講堂があります。

所在地：

**8, Avenue du Mahatma-Gandhi,
Bois de Boulogne, Paris 16^e**



フランク・ゲリー回顧展

(Expo. RETROSPECTIVE FRANK GEHRY)

上記ルイ・ヴィトン財団を設計した現代建築の大家フランク・ゲリーのヨーロッパ初の回顧展。

1957年ロサンゼルス大学建築科卒のアメリカ人で、1989年に建築界のノーベル賞と云われるプリツカー賞受賞。(Il est couronné en 1989 par le prix Pritzker, équivalent du prix Nobel en architecture) ロサンゼルスディズニー・コンサート・ホール、ラスベガスのルー・ルフォ・クリニック、1997年には奇抜な形で有名なビルバオのグゲンハイム美術館、パリでも既にベルシーにあるシネマテークの建物(Cinémathèque Française(51, rue de Bercy, Paris 12e)) 等々の設計で知られていますが、同展は、フランク・ゲリーなる建築家とは誰なのか、どんな建築家なのか、を知る良い機会ではないかと思えます。



2015年1月5日迄

ポンピドー・センター (Centre Pompidou)

アドレス: 19, rue Beaubourg, Paris 4^e

メトロ: Les Halles 又は Rambuteau 下車

火曜日を除く毎日 11時00-21時00、

入場料 13ユーロ



「“印象・日の出”クロード・モネ傑作の真実」展

(Expo. « IMPRESSION – SOLEIL LEVANT » L'histoire vraie du chef-d'oeuvre de Claude Monet)

「印象主義、印象派」(l'impressionnisme)と云う言葉の元となったモネの小さな1枚の絵“印象・日の出”を巡って、その真実を探求する興味ある展覧会です。まず、モネを取り巻く仲間達が、1874年4月パリで開かれた同業組合の展覧会にこの絵を出展したのですが、カタログを作るので業者がモネに、この絵のタイトルを訊ねたところ“ルーアーヴルの景色”では平凡すぎる、、、“印象・日の出”と咄嗟に返事したと云われます。(On me demande le titre pour le catalogue, ça ne pouvait vraiment pas passer pour une vue du Havre ; je répondis : « Mettez Impression »)

モネが1872年から2年間滞在した港町“ルーアーヴル”(Le Havre)の宿“アミローテ”(Hôtel de l'Amirauté)の部屋の窓から見た港の朝の景色を描いたのですが、それもそのホテルの2階の窓から見える景色と違うからルーアーヴルではなく、別の港なのではないか、、、“印象・日の出”を展覧会へ出展するために大騒ぎの仲間達のことを指して“印象派の連中”

と無理解な批評家達が揶揄したのではないかと、正に諸説紛々、限がありません。この絵は1985年にコローの作品などと共に盗まれて行方不明になったことがあり、捜査によりそれが日本か韓国



に在るとのことで、1987年フランスから捜査班が派遣されましたが、その時の主任刑事が女性で、黒のスーツがよく似合う“美人刑事”と日本で話題になったのは私も記憶にあります。一味の「フジクマ」という人も逮捕され、“印象・日の出”は某実業家の自宅で見付かり、1990年にフランスへ戻りました。余談になりますが、その“美人刑事”はミレイユ・バレストラジさんと云い、現在は国際警察「インターポール」、正式にはICPO(International Criminal Police Organization :国際刑事警察機構)の総裁として190ヶ国の地域・国家警察を統括して活躍されています。こうした数知れないエピソードを背景に“印象主義”“印象派画家”の作品を前に辿ってみるのも面白いかと思えます。



マルモッタ美術館 (Musée Marmottan)

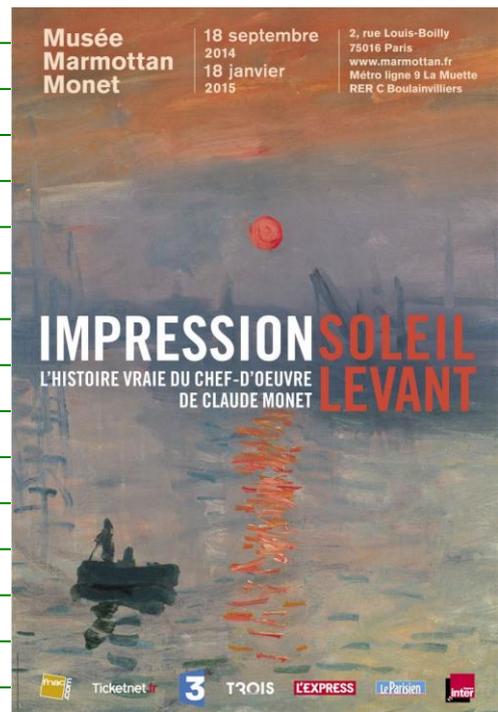
アドレス : 2, rue Louis Boilly, Paris 16°

メトロ : La Muette

2015年1月18日迄

月曜を除く毎日10時00-18時00

入場料11ユーロ、7才未満 無料



2014年10月20日 Sainte Adéline 日の出08時18・日の入18時51 天気 : パリ : 朝夕14°C/日中18°C曇天、ニース : 17/23°C晴天、ストラスブール : 13°C/21°C曇天 冬時間 : 10月26日(日)時計の針を1時間遅らせて下さい。朝の8時はまだ7時です。日本との時差は8時間 : パリ08時=東京16時です。